

目次

第1章 問題の所在と研究目的	1
1節 問題の所在と研究目的.....	1
1. はじめに.....	1
2. 問題の所在：海外の初等中等教育機関における日本語教育の意味と実践を語るの は誰か.....	1
3. 本研究の目的.....	4
2節 年少者日本語教育実践における意味世界の重要性.....	4
1. 日本語教師の意味世界.....	4
2. 年少者日本語教育における教師の意味世界の重要性.....	5
3. 外国語としての日本語教育の意義—学習者の意味世界構築.....	6
4. 学習者の意味世界を重視するアプローチと言語教育政策への影響 —オーストラリアにおけるILT.....	8
5. 外国語教育における教師の意味世界の重要性.....	9
第2章 本研究の視座と研究方法	11
1節 本研究の視座：日本語教師の意味世界と実践を捉える視座.....	11
1. 日本語教師の実践、意味世界、学びの関係.....	11
2. 日本語教育実践に関わる意味世界を捉える視座.....	13
2.1 日本語教育における「〇〇観」への注目.....	13
2.2 教育学における教師の実践的知識への注目.....	14
3. 日本語教師の意味世界を捉える五つの観点.....	14
3.1 子どもが日本語を学ぶこと.....	14
3.2 子どもに日本語を教えること.....	16
3.3 実践の状況に対する意味づけ.....	16
3.4 日本語教師のアイデンティティ.....	17
3.5 日本語教師の世界観.....	18
4. 日本語教師の意味世界形成過程を捉える視座.....	19
4.1 日本語教師が参加し経験する場.....	19

4.2	日本語教師の意味世界の形成に関わる時間.....	19
4.3	「物語」として構築される意味世界.....	20
5.	日本語教師の意味世界に迫るライフストーリー研究.....	21
5.1	ライフストーリーにおける時間の概念.....	21
5.2	ライフストーリーにおける語り手と聞き手の関係.....	22
5.3	ライフストーリーにおけるマスター・ナラティブと多声性.....	23
6.	本論文の研究課題.....	24
2節	研究の手続き.....	25
1.	研究協力者と調査概要.....	25
2.	分析の方法.....	26
3.	研究倫理.....	28
3節	本論文の構成.....	29

第3章 オーストラリアの日本語教師を取り巻く文脈：

	言語教育政策・言語教育理論・日本語教育の状況の変遷.....	31
1節	はじめに.....	31
2節	1970年代まで：多文化主義の模索と日本語教育の再開.....	31
1.	オーストラリアにおける多言語・多文化存在と人種差別の歴史.....	31
2.	「多文化主義」確立の努力と英語以外の言語教育への関心の高まり.....	32
3.	日本とオーストラリアの交流と日本語教育の歴史.....	33
4.	1960年代から1970年代の日本語教育.....	35
3節	1980年代から1990年代：言語教育政策の興隆と日本語教育の広がり.....	37
1.	1980年代の日本語教育の状況と課題.....	37
2.	初の包括的な言語政策の登場—『言語に関する国家政策』（1987年）.....	38
3.	ALLガイドラインと「よろしくシリーズ」 —学習者中心、アクティビティ・ベース・アプローチの導入.....	40
4.	LOTE教育の経済的意義の強調.....	41
5.	経済的観点から推進されたアジア言語教育と言語運用力の重視.....	43
6.	1990年代の日本語教育の状況.....	44
7.	日本語教育に対するオーストラリア社会の反応.....	46

8.	1990年代の日本語教育の課題.....	47
4節	1996年以降：政策、理論、日本語教育における言語教育の意義再構築.....	51
1.	言語教育政策の後退と日本語教育のかけり	51
1.1	1996年から2002年一言語教育政策の沈黙期.....	51
1.2	NALSAS 予算廃止後の日本語教育の状況.....	52
2.	2000年代の日本語教育の課題—経済的意義から異文化間能力育成へ.....	53
2.1	学習成果（アウトカム）アプローチ	54
2.2	内容重視アプローチ、学校全体アプローチ	54
2.3	日本語教育の意義捉え直しと文化の重視	56
3.	オーストラリアで発展した ILT—言語教育理論における言語教育の意義捉え直し.....	58
3.1	ILT が生まれた背景	58
3.2	ILT における異文化間能力の捉え方.....	60
3.3	ILT の「方法」と「内容」とは.....	61
4.	2003年から2007年一言語教育政策における言語教育の意義捉え直し.....	65
4.1	「異文化間言語学習に関する報告書」	65
4.2	アジア言語教師研修プロジェクト	68
4.3	新しい言語教育政策の発表—「国家声明と計画」	69
5.	初等中等教育機関における日本語教育で ILT を実践する問題とは.....	71
5節	考察.....	73
1.	言語教育政策、言語教育理論、日本語教育の状況の変遷とその関わり	73
2.	日本語教育に関わるマスター・ナラティブとそれに対抗する語り	75
2.1	英語は世界の共通語であり LOTE 教育は必要ない	75
2.2	LOTE 教育の意義に関する語り—経済的利益か知的・文化的資質か.....	75
2.3	日本語は「役に立つ」言語である／日本語教育は役に立たない	76
2.4	日本語は難しい／教師の日本語運用力が低い	76
2.5	LOTE 教育の目的は異文化間能力の育成である.....	77
3.	オーストラリア初等中等教育機関における日本語教育の課題	77
第4章	Margaret の経験・意味・実践.....	79
1節	はじめに.....	79

2 節	研究の手続き	79
1.	研究協力者と筆者の関係	79
2.	二度の調査の目的と方法	79
3.	分析の方法	80
3 節	第一次研究：学校・職場における状況認識と実践の軌跡	82
1.	学校における言語学習経験（1950 年代初め～1970 年代中ごろ）	82
2.	初任校での日本語教育経験（1970 年代中ごろ～1988 年）	84
3.	カリキュラム執筆経験（1989 年～1990 年）	86
4.	LOTE コーディネーターとしての経験（1990 年～1997 年）	88
5.	高校の言語課長としての経験と現在の課題・実践・理想（1998 年～現在）	90
4 節	第二次研究：経験を通して形成された Margaret の意味世界	99
1.	外国語学習経験の意味—実践・アイデンティティ・世界観への影響	99
1.1	外国語学習経験の意味と実践への影響	99
1.2	日本語を学ぶことによって得たもの—Margaret 自身への影響	102
2.	ロールモデルとなる日本語教師からの学び	106
3.	子どもへの日本語教育経験とその意味	107
3.1	日本語教育実践からの学び—生徒が理解できる教え方の習得	107
3.2	日本語教師としてのやりがいを感じる経験	108
3.3	日本語学習に興味を持たせる実践の工夫	108
3.4	教師としての経験からの学び—生徒への接し方	110
4.	オーストラリアの子どもが日本語を学ぶことの意味	112
5.	オーストラリアの子どもに日本語を教えることの意味と実践の工夫	114
5 節	考察	116
1.	Margaret の経験と意味世界の形成過程	116
2.	Margaret の意味世界と実践の関係	121
3.	言語教育政策・言語教育理論の変遷と Margaret の経験の関係	125
第 5 章	Anne の経験・意味・実践	128
1 節	はじめに	128
2 節	研究の手続き	128

1. A小学校およびB小学校の概要	128
2. 三つの調査の目的と方法	129
3. 三つの調査が行われた文脈	130
3.1 第一次調査の文脈	130
3.2 第二次調査の文脈	131
3.3 第三次調査の文脈	133
4. 分析の方法	133
3節 Anneの意味世界と日本語教育実践	135
1. 子どもの学びと教師の役割	135
1.1 子どもの学びを支える三要素—環境、自信と自尊感情、興味・動機	135
1.2 生徒の背景を捉えることの重視	136
1.3 生徒の多様性の認識	136
2. 子どもの学びを支える日本語教育実践	137
2.1 個に応じた目標と評価	137
2.2 生徒にとっての「現実」と日本語の統合	140
2.3 段階的な指導、練習、定着の重視	141
2.4 学習のための安全で居心地のよい環境づくり	142
2.5 学びのモメンタム	142
3. Anneの実践における文化の扱い	146
4. 日本語教育を通じて目指すこと—他者との関わり方を教える	149
5. Anneの実践を制限する状況	153
5.1 時間と人数	154
5.2 学習のためのリソース、設備の不足	154
5.3 他の教師からの支援が得られない	156
5.4 研修の機会・情報が得られない	156
5.5 LOTEに対する指導者層の言動	158
4節 意味世界の形成と変容：学校内外での経験と学び	159
1. Anneの個人・家庭生活における経験とその意味づけ	
—世界観とアイデンティティの形成・変容	159
1.1 オーストラリアへの移住経験とその意味づけ	159

1.2	日本語学習および日本留学中の経験とその意味づけ	161
1.3	ホストファミリーとして留学生を受け入れた経験とその意味づけ	163
1.4	ライフステージの変化とその意味づけ	164
2.	日本語教育実践経験を通じた意味世界の形成と変容	
	—「子どもが日本語を学ぶこと」「子どもに日本語を教えること」の意味	165
2.1	初任期の学び—理論の適用から生徒に合う授業へ	165
2.2	対象学年の広がりによる学び	166
2.3	生徒の能力と評価の捉え方を変容させた経験	168
2.4	生徒の「個人的な問題」に関心を持つ契機となる経験とその意味づけ	169
3.	日本語教師としての個人史の意味づけ	
	—状況の変化とアイデンティティの変化	171
3.1	日本語教育にやりがいを感じていた時期	172
3.2	B小学校での状況の変化と日本語教育実践への影響	173
3.3	LOTE への価値づけの低さとアイデンティティへの影響	173
3.4	大学院での学びとその意味づけ	174
3.5	学びによってもたらされた変化と日本語教育実践への意欲	175
5 節	考察	177
1.	経験・意味・実践の密接な相互関係	177
2.	Anne の実践・意味世界と言語教育政策・理論の関係	183
第 6 章	Kate の経験・意味・実践	186
1 節	はじめに	186
2 節	研究の手続き	186
1.	Z 小学校の概要	186
2.	調査の目的と方法	187
3.	調査が行われた文脈	188
4.	分析の方法	189
3 節	実践事例から捉える Kate の意味世界と日本語教育実践の特徴	191
1.	最新の理論や政策をいち早く実践に取り入れる	191
2.	ILT を取り入れた実践事例	192

2.1 「夢の寢室」プロジェクトの概要.....	192
2.2 授業の様子.....	195
2.3 生徒たちの作品.....	197
3. Kate の日本語教育実践の特徴.....	198
3.1 生徒の興味や知的好奇心を高める工夫と努力	198
3.2 生徒に対する高い期待と厳しさ	199
3.3 学習項目の理解と定着を支える練習や指導の少なさ	199
3.4 日本語によるインターアクションの少なさ	200
3.5 言語と文化が切り離されていること	200
4 節 Kate の語りから捉える意味世界とその形成過程.....	201
1. 言語学習・異文化経験とその意味	201
1.1 スコットランドにおける外国語学習経験とその意味.....	201
1.2 日本滞在と日本語学習経験	201
1.3 体に染みついた日本語と日本の習慣—外国に住むということの意味	203
1.4 Kate にとって言語を学ぶことの意味.....	204
2. 職務の変化とその意味—三つの学校での課題と実践	206
2.1 初任校での課題と実践(1996～1998年)	206
2.2 二校目での課題と実践(1999年)	207
2.3 Z 小学校での課題と実践(2000～2005年)	207
3. 日本語の教室以外での経験とその意味	210
3.1 日本から来た小学生の存在—ことばがわからなくても意味を理解できる	210
3.2 日本の中学校でのエピソード.....	211
3.3 実践への影響—生徒たちが「トライ」することを促す工夫	213
3.4 Kate の実践を困難にしていた教室内の状況と Kate の戦略.....	214
4. オーストラリアの子どもたちに日本語を教えた経験とその意味.....	214
4.1 実践経験を通して学んだこと	215
4.2 子どもに日本語を教えるやりがい.....	217
5. Kate が置かれた状況の変化とアイデンティティの変化.....	218
5.1 オーストラリアにおける言語教育の状況に対する意味づけと実践.....	218
5.2 オーストラリアの子どもが日本語を学ぶ意義	219

5.3	日本語を教える上での困難な状況.....	221
5.4	日本語教師を辞めた経緯と今後の希望.....	223
5 節	考察.....	227
1.	Kate の経験・意味・実践の関係.....	227
1.1	子どもが日本語を学ぶこと、子どもに日本語を教えることの 意味世界形成過程.....	227
1.2	進路選択に見る Kate の世界観.....	230
1.3	状況に対する意味づけとアイデンティティの変化.....	232
1.4	筆者が捉えた実践の特徴と Kate の意味世界の関係.....	234
2.	Kate の経験と言語教育政策、言語教育理論の関係.....	238
第 7 章 海外の子どもに日本語を教える意味と実践のあり方：		
日本語教師の意味世界と実践の関係からの考察..... 241		
1 節	はじめに.....	241
2 節	日本語教師の意味世界形成過程：文脈に根ざした経験と学び.....	242
1.	三人の個人的経験とその意味づけ.....	242
1.1	生い立ち、オーストラリア社会との関係.....	242
1.2	言語学習経験.....	243
1.3	異文化経験.....	243
1.4	子どもとの関わり.....	244
1.5	ロールモデルの存在.....	245
1.6	職務の変化.....	246
1.7	学校における日本語教育の価値づけの変化.....	246
1.8	理論との出会い.....	248
1.9	家庭生活における変化.....	248
1.10	交友関係.....	249
2.	日本語教師の意味世界形成過程とオーストラリアの社会的政治的文脈の関係....	250
3.	日本語教師の経験、文脈と学びの関係.....	251
3 節	日本語教師の意味世界と実践： 日本語教師にとって子どもに日本語を教えるとはどういうことか.....	254

1. 世界観	254
1.1 日本語、日本、日本人をどう捉えるか.....	254
1.2 ことば、文化、異文化理解をどう捉えるか.....	255
1.3 ことばと文化以外の世界観	257
2. アイデンティティ.....	258
2.1 言語学習経験、異文化経験とアイデンティティの変化	258
2.2 実践経験、状況とアイデンティティの変化.....	258
2.3 アイデンティティと日本語教育実践の関係.....	259
3. 状況に対する意味づけ.....	259
3.1 子どもの状況	260
3.2 学校・職場における日本語教育、日本語教師の状況.....	260
3.3 地域・社会における日本語教育の状況.....	261
3.4 言語教育政策の状況.....	261
4. 子どもが日本語を学ぶこと、子どもに日本語を教えることの意味	263
4.1 子どもに日本語を教える意義.....	263
4.1.1 異文化間能力の育成	263
4.1.2 子どもの全人的成長	264
4.2 初等中等教育機関における日本語教育の目標	265
4.3 子どもへの日本語教育実践のあり方	267
4.3.1 日本語学習に対する興味・動機を高める実践の設計と環境づくり	267
4.3.2 日本語学習に対する自信を高める実践の設計と環境づくり	272
4.3.3 子どもの自尊感情を高めるための環境づくり	273
4.3.4 子どもが他者を受け入れ尊重するための環境づくり	274
4.3.5 子どもが異文化・異言語を受け入れ、理解し、 尊重するための環境づくり	275
4.3.6 子どもへの日本語教育実践における二つの観点	276
4.4 教室外での日本語教師の実践.....	276
5. 日本語教師の意味世界と実践とは	278
5.1 日本語教師にとって子どもに日本語を教える意味と実践のあり方とは何か.....	279
5.2 子どもに日本語を教える意味と実践に統合された日本語教師の意味世界	280

5.3	日本語教師の意味世界と実践の関係	282
5.4	日本語教師の意味世界を捉える観点の再検討	285
4節	日本語教師の意味世界・実践と文脈の関係	287
1.	日本語教師の主体的な学びと実践を支えていた状況	287
2.	日本語教師の主体的な学びと実践を制限していた状況.....	290
3.	日本語教師の主体性に作用する要因.....	292
5節	海外の初等中等教育機関における日本語教育の意味と実践のあり方とは：	
	オーストラリアの日本語教師の意味世界と実践からの示唆	294
1.	日本国外の子どもに日本語を教える意味と実践のあり方とは	294
1.1	異文化間能力を育成する年少者日本語教育実践とは.....	294
1.2	なぜ日本語を教えるのか.....	298
2.	日本語教師の主体的な学びと実践に何が必要か	300
2.1	日本語教師の主体的な学びと実践の円環	300
2.2	主体的な学びと実践を行うために日本語教師自身に求められること	301
2.3	日本語教師の主体的な学びと実践を支える「学びの場」の設計	304
3.3.1	主体的な学びと実践を支える「学びの場」に必要な視点	304
3.3.2	「学びの場」の設計試案	306
2.4	主体的な学びと実践を支える環境のあり方.....	308
6節	本研究の意義と今後の課題.....	315
	謝辞.....	317
	参考文献.....	318
	早稲田大学 博士（日本語教育学） 学位申請 研究業績書.....	332

図表目次

図一覧

図 1	ILT の学習活動のサイクル.....	8
図 2	Crozet & Liddicoat (1999)における言語と文化の関係.....	61
図 3	Margaret の意味世界と実践の関係.....	122
図 4	Anne の意味世界と実践の関係	182
図 5	Kate の意味世界と実践の関係	237
図 6	日本語教師の意味世界を構成する各要素の相互関係と経験	284
図 7	日本語教師の意味づけと実践の円環	301

表一覧

表 1	研究協力者のプロフィールと調査概要.....	25
表 2	1990 年代の初等中等教育における日本語教育機関数・教師数・学習者数.....	45
表 3	1990 年代の小学校における日本語学習者数（クイーンズランド州、タスマニア州、 ビクトリア州.....	45
表 4	1990 年から 1996 年までの 12 学年における日本語学習者数： 全国合計（DEETYA）	45
表 5	1998 年から 2006 年までの初等中等教育機関における日本語教育の状況.....	52
表 6	2001 年度と 2005 年度州立学校における主要言語学習者数.....	53
表 7	言語教育政策・言語教育理論・日本語教育の状況の変遷.....	73
表 8	地域における Margaret の経験と意味世界の関係.....	117
表 9	職務経験の変化に伴う Margaret の意味世界と実践の変化.....	118
表 10	教室・学校における Margaret の経験、意味づけ、日本語教育実践の関係	120
表 11	Margaret の経験と言語教育政策・言語教育理論の変遷	126
表 12	Anne の経験・意味・実践の関係.....	178
表 13	実践の状況に対する Anne の意味づけとアイデンティティの変化.....	180
表 14	Anne の経験と言語教育政策・言語教育理論の変遷	183
表 15	「夢の寝室」プロジェクトで学習する日本語文型・語彙リスト	193
表 16	「夢の寝室」プロジェクトのプレゼンテーション課題の評価基準.....	194

表 17	Kate の経験・意味・実践の関係.....	228
表 18	転機における進路選択の基準と世界観.....	231
表 19	Kate の状況に対する意味づけ・状況への働きかけ・アイデンティティ.....	232
表 20	Kate の経験と言語教育政策・言語教育理論の変遷.....	238
表 21	ことば、文化、異文化理解の捉え方の相違点.....	257
表 22	三人の主体的な実践と学びを支える要因.....	288
表 23	Anne と Kate の主体的な実践と学びを制限する要因.....	291